

1.	③	11.	①	21.	③	31.	④	41.	①
2.	②	12.	④	22.	②	32.	④	42.	③
3.	②	13.	③	23.	①	33.	①	43.	①
4.	④	14.	④	24.	①	34.	②	44.	③
5.	④	15.	②	25.	④	35.	③	45.	④
6.	①	16.	①	26.	④	36.	④	46.	④
7.	④	17.	③	27.	②	37.	①	47.	④
8.	②	18.	①	28.	③	38.	④	48.	②
9.	③	19.	④	29.	①	39.	②	49.	①
10.	③	20.	①	30.	③	40.	③	50.	④

1.

解答 ③

【解説】

正解は③の「昼寝をする」です。『nap』という単語自体が、「うたた寝、仮眠、昼寝」といった、夜に本格的に寝るのとは別の、短い睡眠を指す名詞です。そして、'take' という動詞と結びついて『take a nap』で「昼寝をする、仮眠をとる」という決まった言い方になります。他の選択肢も、'take' を使った別の熟語で表現されることが多い、日常的な行動です。①「休憩する」は 'take a break' や 'take a rest'、②「シャワーを浴びる」は 'take a shower'、④「散歩する」は 'take a walk' となります。このように、'take' は非常に多くの名詞と結びついて様々な意味を表す基本動詞なので、コロケーション（語の組み合わせ）として覚えるのが効果的です。

◆補足：特に週末の午後や、昼食後などに短い睡眠をとることを指して使われます。'sleep' が一般的な「眠る」を指すのに対し、'take a nap' はより具体的でカジュアルな響きがあります。例文: "I felt a little sleepy after lunch, so I decided to take a nap for 30 minutes." (昼食後に少し眠くなったので、30分ほど昼寝をすることにしました。)

2.

解答 ②

【解説】

正解は②の『share』です。この単語は、「～を共有する、分け合う、一緒に使う」という意味を持つ動詞です。一つのものを複数の人で分け合って使ったり、楽しんだり、負担したりする、という協調的なニュアンスがあります。ピザや部屋、情報、意見など、様々なものを目的語に取ることができます。問題の状況のように、食べ物を仲良く分け合う場面にぴったりの単語です。他の選択肢も「分ける」に関連する動詞ですが、ニュアンスが異なります。①の『divide』は、全体をいくつかの部分に「分割す

る、割る」という、より機械的・数学的な意味合いが強いです。③の『separate』は、くっついているものを「引き離す、分離する」という意味。④の『give』は、一方的に「与える、あげる」という意味です。

◆補足：『share A with B』の形で「A を B と分け合う」という使い方は非常に重要です。例文: "He shared his umbrella with me." (彼は私に傘を貸してくれた。/相合い傘をしてくれた。) このように、親切的な行為を表す際にもよく使われます。

3.

解答 ②

【解説】

正解は②の「青白い」です。『pale』は、人の顔色について使われる場合、「(病気、恐怖、ショックなどで) 青白い、血の気のない」という意味の形容詞です。健康ではない状態や、強い感情を抱いている状態を表すことが多いです。例えば、気分が悪い人を見て "You look pale." (顔色が悪いよ) と言ったりします。他の選択肢を見てみましょう。①の「日焼けした」は 'tanned' や 'sunburned'。③の「怒って赤い」は 'red with anger' のように表現できます。④の「幸せそうな」は 'happy' や 'radiant' などが使われます。それぞれ全く異なる状態を表していますね。

◆補足：人の顔色だけでなく、色そのものについて「(色が) 薄い、淡い」という意味で使われることも非常に多いです。例えば、"pale blue" (淡い青色) や "pale green" (淡い緑色) のように、他の色と組み合わせて使います。この二つの意味、「顔色が青白い」と「色が淡い」を覚えておきましょう。

4.

解答 ④

【解説】

正解は④の『bite』です。この単語は、動詞として、歯を使って「～を噛む、～に噛みつく」という行為を表します。犬などの動物が攻撃のために噛みつく場合や、人間が食べ物を食べるために噛む場合など、幅広い状況で使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる種類の攻撃や物理的な動作を指します。①の『kick』は「～を蹴る」。②の『hit』は「～を打つ、叩く」。③の『push』は「～を押す」です。これらの基本的な動作を表す動詞は、意味を正確に区別して使えるようにしておくことが、状況を正しく描写するために不可欠です。

◆補足：『bite』は名詞として「噛むこと」や「一噛み」、あるいは「虫刺され」(insect bite) という意味でも使われます。動詞の活用は、bite - bit - bitten と不規則に変化するので、この形も必ず覚えておきましょう。例文: "Be careful. That dog might bite you." (気をつけて。あの犬は君に噛みつくかもしれないよ。)

5.

解答 ④

【解説】

正解は④の『marry』です。この動詞は、「～と結婚する」という意味を表します。法的に、また社会的に夫婦となる、という公式な行為を指します。重要なポイントは、『marry』は他動詞として使われるため、後ろに 'with' などの前置詞を必要としないことです。"marry someone" で「誰々と結婚する」となります。他の選択肢は、結婚に至るまでの各ステップを表す動詞です。①の『date』は「～と付き合う、デートする」。②の『propose to』は「～に結婚を申し込む、プロポーズする」。③の『engage』は、"be engaged to" の形で「～と婚約している」という意味で使われます。これらの順序を理解しておく、恋愛に関する物語などを読む際に役立ちます。

◆補足：結婚している状態を表す場合は、"be married to someone" (～と結婚している) という形を使います。動詞の 'marry' (結婚するという行為) と、状態を表す 'be married' の違いをしっかりと区別しましょう。例文: "Will you marry me?" (私と結婚してくれますか?) は、プロポーズの際の決まり文句です。

6.

解答 ①

【解説】

正解は①の「できるだけ～」です。この表現は、"as + 形容詞/副詞 + as possible" の形で、「可能な限り～、できるだけ～」という意味を表し、程度が最大級であることを示します。非常に応用範囲が広く、日常会話からビジネス文書まで、様々な場面で使われる重要な構文です。例えば、"as soon as possible" (できるだけ早く)、"as much as possible" (できるだけたくさん) などは、決まり文句として頻繁に登場します。②「ほとんど～ない」は 'hardly' や 'rarely'、③「～でさえあれば」は 'as long as'、④「～すればするほど」は 'the more ～, the more ...' の構文が使われます。

◆補足：この表現の 'possible' の部分は、'you can' のように「主語 + can」で言い換えることもできます。"Please come as soon as you can." は "Please come as soon as possible." と同じ意味になります。例文: "Please fill out this form and return it to me as soon as possible." (この用紙に記入して、できるだけ早く私に返送してください。)

7.

解答 ④

【解説】

正解は④の『brush』です。この単語は、ブラシやハケのような道具を使って「～を磨く、～にブラシをかける」という意味の動詞です。「歯を磨く」は "brush one's teeth"、「髪をとくす」は "brush one's hair" というように、決まった言い方で使われることが非常に多いです。これらは毎日の習慣を表す基本的な表現なので、必ず覚えておきましょう。他の選択肢は、口に関する別の動作や、「磨く」の類義語ですが、文脈に合いません。①の『chew』は「～を噛む」。②の『wash』は「～を洗う」。

で、"wash one's face" (顔を洗う) のように使います。③の『polish』は、靴や金属、家具などを磨いて「～につやを出す」という意味です。歯を「磨く」のとはニュアンスが異なります。

◆補足：『brush』は名詞として、道具の「ブラシ、ハケ」そのものを指します。「歯ブラシ」は 'toothbrush'、'ヘアブラシ' は 'hairbrush' となります。このように、動詞と名詞の両方の使い方を覚えておくと、語彙力がぐっと深まります。例文: "Don't forget to brush your teeth before you go to bed." (寝る前に歯を磨くのを忘れないでね。)

8.

解答 ②

【解説】

正解は②の「死んだ、機能しない」です。『dead』は、「死んでいる」という状態を表す形容詞です。動詞の 'die' (死ぬ) と混同しないように注意が必要です。「死ぬ」という一瞬の動作(die)の結果、続いている「死んだ状態」が『dead』です。また、人や動物だけでなく、機械や電池などが「機能しない、動かない」という意味でも非常によく使われます。例えば、"My phone is dead." は「携帯の充電が切れた」という意味の決まり文句です。①の「死にかけている」は 'dying'、③の「死ぬ運命にある」は 'mortal'、④の「致命的な」は 'deadly' や 'fatal' という、それぞれ異なる単語や形になります。

◆補足：『dead』は形容詞なので、be 動詞と一緒に使われることが基本です。"He is dead." (彼は亡くなっている。) のように使います。動詞の 'die' は "He died last year." (彼は昨年亡くなった。) のように、過去の出来事として使います。この品詞の違いは非常に重要なので、しっかり区別してください。

9.

解答 ③

【解説】

正解は③の「ごみ」です。『garbage』は、主に家庭から出る生ごみや不用品などの「ごみ」を指す、非常に一般的な単語です。特にアメリカ英語でよく使われる傾向があります。イギリス英語では、同じ意味で 'rubbish' という単語が使われることが多いです。他の選択肢は、家に関連する別の場所を指します。①の「庭」は 'garden' や 'yard'、②の「ガレージ」は 'garage' (発音が似ているので注意!)、④の「地下室」は 'basement' となります。これらの単語は、住居に関する説明や物語などでよく登場するので、しっかり区別して覚えましょう。

◆補足：ごみを捨てることは "throw away the garbage"、ごみ収集車は "garbage truck"、ごみ箱は "garbage can" と言います。このように、関連する表現とセットで覚えると、記憶に定着しやすくなります。例文: "Please take out the garbage on Tuesday morning." (火曜日の朝にごみを出してください。)

10.

解答 ③

【解説】

正解は③の「～したい気分だ」です。この表現は、何かをしたいという具体的な欲求や、漠然とした願望を表すときに使われる、非常に口語的で便利なフレーズです。"I want to do" よりも、もう少し柔らかく、その時の気分を強調したニュアンスがあります。例えば、「今日はピザが食べたい気分だな」という時に "I feel like eating pizza tonight." のように使います。他の選択肢を見てみましょう。①「～しなければならない」は 'must' や 'have to do' で表現される義務を表します。②「～できそうな気がする」は 'feel like I can do' のように、能力に対する感覚を述べます。④「～したほうがよい」は 'should do' や 'had better do' で表現される助言や忠告です。これらは全て「～したい気分」という純粹な欲求とは異なるため、不正解となります。

◆補足：この表現は否定文で "don't feel like doing" の形で使うことも非常によくあります。これは「～する気分ではない、気が進まない」という意味になります。例文: "I'm tired, so I don't feel like going out tonight." (疲れているから、今夜は出かける気分じゃないんだ。)

11.

解答 ①

【解説】

正解は①の『escape』です。この単語は、危険な場所や、捕らえられている状況、不快な状況などから「逃げる、脱出する」という意味の動詞です。単にその場を離れるだけでなく、困難や危険を乗り越えて自由になる、というニュアンスが含まれています。燃えている建物という、まさに生命の危険がある場所から逃げ出すこの問題の状況に最も適しています。他の選択肢は、それぞれ全く異なる行動を指します。②の『enter』は「～に入る」。④の『return』は「～に戻る」。これらは「逃げる」とは逆の行動ですね。③の『hide』は「隠れる」という意味で、危険から逃れるための一つの方法ではありますが、「逃げ出す」という移動を伴う行為そのものを指すわけではありません。

◆補足：『escape from ～』の形で「～から逃げる」と使われることが多いです。また、名詞としても「逃亡、脱出」という意味で使われます。例文: "The prisoner tried to escape from the jail, but he failed." (その囚人は刑務所から脱出しようとしたが、失敗した。)"Reading books is a form of escape from reality for me." (私にとって、本を読むことは現実からの逃避の一つの形だ。)

12.

解答 ④

【解説】

正解は④の『bark』です。この単語は、犬が「ワンワン」と「ほえる」という、特有の鳴き声を表す動詞です。猫が 'meow' (ニャーと鳴く) と言うように、動物の種類によって鳴き声を表す動詞が異なることが多いので、これはその代表例として覚えておきましょう。他の選択肢は、それぞれ異なる種類の「声を出す」行為を表します。①の『sing』は、人間や鳥が「歌う」こと。②の『cry』は、人間が

「泣く」という意味が最も一般的ですが、鳥などの動物が甲高い声で「鳴く」という意味で使われることもあります。しかし、犬のほえ声には通常使いません。③の『speak』は、人間が言語を「話す」という意味です。これらの基本的な動詞との違いを明確に理解しておくことが重要です。

◆補足：『bark』は名詞として「ほえ声」という意味でも使うことができます。また、ことわざ "His bark is worse than his bite." (彼のほえ声は、彼が噛みつくほど悪くはない) は、「彼は口やかましいだけで、実際は怖くない (根は優しい人だ)」という意味で使われることがあります。例文: "My neighbor's dog always barks when someone passes by the house." (私の隣人の犬は、誰かが家の前を通るといつもほえる。)

13.

解答 ③

【解説】

正解は③の「国籍」です。『nationality』は、ある人がどの国の国民であるか、つまり、その人の「国籍」を示す名詞です。入国審査の書類や公的な書類などで、記入を求められることが多い単語です。他の選択肢も、国に関連する重要な単語ですが、意味が異なります。①の「国民性」は 'national character'。②の「国家」は 'nation' や 'state'。④の「国際化」は 'internationalization' となります。これらの単語は、'nation' (国) という共通の語源から派生していますが、それぞれが指す概念は異なるため、正確に区別して覚えることが重要です。

◆補足：'nation' (国、国民) → 'national' (国の、国民の) → 'nationality' (国籍) という派生の流れを理解すると、単語の関係性が分かり、記憶に残りやすくなります。例文: "What is your nationality?" (あなたの国籍はどこですか?) という質問に対しては、"I'm Japanese." (私は日本人です。) と答えるのが一般的です。

14.

解答 ④

【解説】

正解は④の「厚い、太い」です。『thick』は、物の厚みや、棒状のものの太さを表す基本的な形容詞です。例えば、分厚い本は "a thick book"、太い木の幹は "a thick tree trunk" と表現します。また、液体や霧などが「濃い」状態を表す際にも使われます。例えば、"thick soup" (濃いスープ) や "thick fog" (濃い霧) などがある例です。他の選択肢は、それぞれ異なる性質を表す形容詞です。①の「重い」は 'heavy'、②の「硬い」は 'hard'、③の「濃い」は、'thick' が使える場合もありますが、色などが濃い場合は 'dark'、味が濃い場合は 'strong' など、文脈によって使い分けが必要です。

◆補足：『thick』の対義語は、次の問題に出てくる『thin』(薄い、細い) です。この二つはセットで覚えるのが最も効果的です。例文: "This dictionary is so thick and heavy." (この辞書はとても分厚くて重い。) "He was wearing a thick sweater because it was cold." (寒かったので、彼は厚いセーターを着ていた。)

15.

解答 ②

【解説】

正解は②の「退屈な」です。『boring』は、「(人・物・事が) 人を退屈させる、面白くない」という意味の形容詞です。話の内容、映画、授業、仕事などが、面白みや刺激に欠け、眠くなるような状態を表します。重要なのは、'boring' が「退屈させる側」の性質を表す、という点です。他の選択肢は、それぞれ異なる感情を引き起こす性質を表します。①の「興奮させる」は 'exciting'。③の「安心させる」は 'reassuring'。④の「驚くべき」は 'surprising' や 'amazing' となります。これらの感情を表す形容詞の使い分けは、英検でも頻出のポイントです。

◆補足：人が「退屈している」という自分の感情を表す場合は、'-ed' を使った『bored』になります。"I am bored." (私は退屈している) は、"The movie is boring." (その映画は退屈だ) が原因、という関係です。この '-ing' (～させる) と '-ed' (～させられる、～している) の使い分けは、感情動詞をマスターする上で最も重要なルールなので、絶対に覚えてください。

16.

解答 ①

【解説】

正解は①の『act』です。この単語は、動詞として非常に多くの意味を持ちますが、中心的な意味の一つに「(俳優などが役を) 演じる」というものがあります。舞台や映画で、役になりきって行動することを指します。他の選択肢も舞台や演技に関連しますが、ニュアンスが異なります。②の『direct』は「監督する」。③の『move』は「動く」。④の『show』は「～を見せる」という意味です。文脈から、「演技する」という専門的な行為を指す『act』が最も適切です。

◆補足：『act』は「行動する」という意味が最も基本的ですが、名詞としては「行為」や、演劇の「幕」という意味もあります。また、派生語には 'actor' (俳優)、'actress' (女優)、'action' (行動) など、重要な単語がたくさんあります。例文: "She has acted in many movies and plays." (彼女は多くの映画や劇で演じてきた。)

17.

解答 ③

【解説】

正解は③の『delay』です。この単語は、動詞として「～を遅らせる、延期する」、名詞として「遅延、延期」という意味を持ちます。予定されていた時間よりも物事が遅れる、という状況全般で使うことができます。特に、飛行機や電車などの交通機関の遅れについて話す際によく使われます。この問題では、私たちの便が「遅らされた」という受け身の形で使われています。他の選択肢も、旅行の場面でよく使われる単語です。①の『cancel』は「～を中止する、キャンセルする」。②の『change』は「～を

変更する」。④の『arrive』は「到着する」という意味です。これらの単語は、状況に応じて使い分ける必要があります。

◆補足：名詞の「遅延」として使う場合は、"There was a long delay because of the accident." (事故のため、長い遅延があった。) のように使います。また、"without delay" で「遅滞なく、すぐに」という重要な熟語になります。

18.

解答 ①

【解説】

正解は①の「薄い、細い」です。『thin』は、前の問題で出てきた 'thick' (厚い、太い) の対義語で、物の厚みがないことや、棒状のものが細いことを表す基本的な形容詞です。薄い紙は "thin paper"、細い腕は "thin arms" と表現します。また、液体などが「薄い、水っぽい」状態や、人が「痩せている」ことを表す際にも使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる性質を表す形容詞です。②の「軽い」は 'light'、③の「柔らかい」は 'soft'、④の「明るい」は 'bright' や 'light' となります。このように、対義語を意識しながら覚えることで、語彙のネットワークが効率的に広がっていきます。

◆補足：人が「痩せている」という意味で『thin』を使う場合、'slim' や 'slender' が持つ「すらりとして魅力的な」というポジティブなニュアンスとは異なり、時として「痩せすぎている、不健康に痩せている」というネガティブな響きを持つことがあるので、使い方には少し注意が必要です。例文: "He sliced the ham into thin pieces." (彼はハムを薄い小片にスライスした。)

19.

解答 ④

【解説】

正解は④の「(まだ) ~ない、(もう) ~か」です。副詞の『yet』は、使われる文の種類によって意味合いが変わる、少し注意が必要な単語です。否定文の文末で使われる場合は、「(現時点では) まだ~していない」という意味を表します。例えば、"I haven't finished my homework yet." (私はまだ宿題を終えていません。) のように使います。一方、疑問文の文末で使われる場合は、「(現時点までに) もう~しましたか?」と、行為が完了したかどうかを尋ねる意味になります。例えば、"Have you eaten lunch yet?" (もうお昼ご飯は食べましたか?) となります。①「すでに」は肯定文で使う 'already'、②「ちょうど」は 'just'、③「決して~ない」は 'never' がそれぞれ対応します。

◆補足：『yet』は、接続詞として「しかし、それにもかかわらず」という意味で使われることもあります。これは少しレベルが高い用法ですが、文頭で "Yet, he refused the offer." (しかし、彼はその申し出を断った。) のように使われることがあることを知っておくと、読解の際に役立ちます。

20.

解答 ①

【解説】

正解は①の『yell』です。この単語は、特に「怒り」や「警告」、または「遠くにいる人に呼びかける」といった目的を持って、意図的に「大声で叫ぶ、どなる」という意味で使われます。問題文の「弟とケンカをして、怒りのあまり」という状況に最も適した単語と言えます。他の選択肢も確認しましょう。②の『talk』は、一般的な「話す」という行為を指します。③の『cry』は「泣く」という意味で、叫ぶのとは異なります。④の『reply』は「返事をする、応答する」という意味です。声を発するという点では共通していますが、その目的や感情が全く違いますね。『scream』が恐怖などによる甲高い「悲鳴」だったのに対し、『yell』はより意図的な「怒鳴り声」という違いを理解しておきましょう。

◆補足：『yell at someone』で「(人)に向かってどなる」という形でよく使われます。例文: "My father yelled at me for being late." (私は遅刻したことで父にどなられた。) 人を不快にさせることもある強い言葉なので、使う場面には注意が必要ですが、映画やドラマなどでは頻繁に登場する単語です。

21.

解答 ③

【解説】

正解は③の「～するのに忙しい」です。この構文は、「～するという行為で忙しい状態だ」ということを具体的に説明する際に使われます。'be busy' (忙しい) だけでなく、何をして忙しいのかを後ろに動詞の ing 形 (動名詞) で示するのがポイントです。例えば、単に "I was busy yesterday." (昨日、私は忙しかった) と言うよりも、"I was busy preparing for the test yesterday." (昨日、テストの準備をするのに忙しかった) と言う方が、状況がより鮮明に伝わりますね。他の選択肢は、それぞれ全く異なる構文で表現されます。①「～するのが得意だ」は 'be good at doing'、②「～することに慣れている」は 'be used to doing'、④「～することに興味がある」は 'be interested in doing' となります。これらは全て前置詞の後に動名詞が来る重要な構文です。

◆補足：前置詞の 'with' を使って "be busy with (名詞)" (～で忙しい) という形もあります。例文: "She is busy with her club activities." (彼女は部活動で忙しい。) 動詞の動作で忙しい場合は 'doing'、名詞で表される事柄で忙しい場合は 'with' を使う、と覚えておきましょう。

22.

解答 ②

【解説】

正解は②の「植物、工場」です。『plant』には、名詞として二つの主要な意味があり、どちらも英検準2級レベルでは必須の知識となります。一つは、皆さんがよく知っている「植物」です。花や木、野菜など、地面に生える生き物全般を指します。そしてもう一つが、機械などの設備を使って製品を大規模に生産する「工場」です。例えば、"a car plant" は「自動車工場」、"a power plant" は「発電所」を意

味します。一見全く違う意味に見えますが、どちらも重要な意味なので、文脈によって判断できるようになることが大切です。①「動物」は 'animal'、③「惑星」は 'planet'（発音が似ているので注意！）、④「庭園」は 'garden' です。

◆補足：動詞として『plant』を使うと、「～を植える」という意味になります。これは「植物」の意味から連想しやすいですね。例文: "We planted some flowers in our garden last weekend." (私たちは先週末、庭に花をいくつか植えた。) "My uncle has worked at that car plant for 20 years." (私の叔父はあの自動車工場で 20 年間働いています。)

23.

解答 ①

【解説】

正解は①の「便利、好都合」です。『convenience』は、形容詞の 'convenient' (便利な) の名詞形で、「便利なこと」や「都合が良いこと」という状態や性質そのものを指す抽象名詞です。日本語でも「コンビニエンスストア」でお馴染みですが、これは "convenience store" (便利な店) から来ていますね。この身近な例を思い浮かべると、意味を覚えやすいかもしれません。他の選択肢も重要な抽象名詞です。②の「快適さ」は 'comfort'、③の「正確さ」は 'accuracy'、④の「重要性」は 'importance' となります。似たようなカテゴリーの言葉ですが、それぞれの意味は明確に異なります。これらの単語を正確に使い分けることが、よりの確な英語表現につながります。

◆補足：convenience' の対義語は、否定の接頭辞 'in-' を付けた 'inconvenience' (不便、迷惑) です。これも非常に重要な単語なので、セットで覚えましょう。また、"at your convenience" という形で「ご都合のよい時に」という意味の丁寧な表現として、ビジネスメールなどでよく使われます。例文: "Online shopping is a great convenience for busy people." (オンラインショッピングは忙しい人々にとって大変便利なものです。)

24.

解答 ①

【解説】

正解は①の『turn』です。この動詞は非常に多くの意味を持つ基本単語ですが、最も重要な意味の一つが、方向を変える、つまり「曲がる」です。道案内の際には必ずと言っていいほど使われます。"turn right" (右に曲がる)、"turn left" (左に曲がる) は、決まり文句として必ず覚えておきましょう。他の選択肢は、道や移動に関する別の動作を表します。②の『pass』は「～を通り過ぎる」。③の『cross』は、道や川などを「～を横断する、渡る」。④の『stop』は「止まる」です。これらの動詞は、道案内の際にセットで使われることが多いので、それぞれの意味を正確に理解しておくことが大切です。

◆補足：『turn』は、「～を回す」(turn the handle) や、「(ページを) めくる」(turn the page)、状態が「～に変わる」(The leaves turn red in fall.) など、本当に様々な意味で使われます。中心的なイメージは「向きや状態を変えること」と捉えておくと、応用が効きます。名詞としては「順番」(It's your turn.) という意味も重要です。

25.

解答 ④

【解説】

正解は④の「かわいい」です。『cute』は、特に小さい子供や動物、キャラクターなどが、魅力的で「かわいい、愛らしい」様子を表す形容詞です。日本語の「かわいい」という言葉が持つニュアンスに非常に近い感覚で使うことができます。外見的な魅力に対して使われることがほとんどです。他の選択肢は、それぞれ異なる人の性質や状態を表す形容詞です。①の「賢い」は 'smart' や 'clever'。②の「勇敢な」は 'brave'。③の「静かな」は 'quiet' となります。これらは人物描写に欠かせない基本的な形容詞なので、すべて正確に覚えておく必要があります。

◆補足：『cute』は、人や動物だけでなく、洋服やアクセサリ、小物などに対しても「かわいい」という意味で使うことができます。例文: "Look at that cute puppy in the window!" (見て！窓の中にいるあのかわいい子犬を！) "She was wearing a very cute dress." (彼女はとてもかわいいドレスを着ていた。)

26.

解答 ④

【解説】

正解は④の『remind』です。この動詞は、誰かが何かを忘れないように「思い出させる、気づかせる」という意味で使われます。自分自身が思い出すのではなく、人や物がきっかけとなって、他の誰かに何かを思い出させる、という点がポイントです。"remind A of B" (A に B を思い出させる) や "remind A to do" (A に～することを気づかせる) という形で使われることが非常に多いです。他の選択肢は、いずれも「認識」に関連する重要な動詞ですが、ニュアンスが異なります。①の

『remember』は、主語自身が「～を覚えている、思い出す」という意味です。②の『recognize』は、見たり聞いたりしたものが誰・何かを「認識する、見分ける」という意味。③の『realize』は、それまで気づいていなかった事実に「(はっきりと) 気づく、悟る」という意味です。

◆補足：例文: "This song always reminds me of my high school days." (この歌を聴くと、いつも私の高校時代を思い出します。) "Please remind me to call him tomorrow." (明日彼に電話するのを忘れないように、私に言ってくださいね。)

27.

解答 ②

【解説】

正解は②の『look up to』です。この熟語は、前の問題の 'look down on' (～を見下す) とは対照的に、文字通り「上を向いて見る」というイメージから、「(人) を尊敬する、敬う」という意味で使わ

れます。誰かの能力や人格、業績などを素晴らしいものだと考え、その人を目標や模範として見る、というポジティブな態度を示します。他の選択肢は、'look' を使った別の重要な熟語です。①の『look for』は「～を探す」。③の『look down on』は、先述の通り「～を見下す」。④の『look after』は「～の世話をする」という意味です。これらの 'look' を使った熟語は、意味が全く異なり、英検でも頻繁に出題されるので、必ず区別して覚えてください。

◆補足：尊敬の対象となる人が目的語にきます。例文: "He has always looked up to his father as a role model." (彼は昔から、父親をロールモデルとして尊敬してきた。) 自分にとってのヒーローや、目標とする人物について話す際に使える、とても素敵な表現ですね。

28.

解答 ③

【解説】

正解は③の『bake』です。この単語は、オーブンのような密閉された空間で、乾いた熱を使って調理する、つまり「(パンやケーキなどを) 焼く」という意味の動詞です。クッキーやピザ、ジャガイモなどを焼く際にも使われます。他の選択肢は、それぞれ異なる調理法を表す重要な動詞です。①の『boil』は、水やお湯などの液体を沸騰させて「～を茹でる」という意味です。パスタや卵、野菜などを調理する際に使いますね。②の『fry』は、フライパンなどで油を使って「～を炒める、揚げる」という意味です。目玉焼き (fried egg) はこの単語から来ています。④の『steam』は、蒸気を使って「～を蒸す」という意味です。シュウマイや温野菜などを作る調理法ですね。これらの調理法に関する動詞は、料理のレシピや日常会話で頻繁に登場します。

◆補足：『bake』から派生した単語として、パンやケーキを焼く職人を指す 'baker' (パン職人) や、そのお店である 'bakery' (パン屋、ベーカリー) があります。これらの関連語も一緒に覚えておくと、語彙力がさらにアップしますよ。

29.

解答 ①

【解説】

正解は①の「一時停止、小休止」です。『pause』は、話や音楽、活動などを一時的に中断すること、またはその短い中断時間を指す名詞です。動詞としても「一時停止する」という意味で使われます。音楽プレイヤーや動画サイトのリモコンにある、再生を一時的に止める「ポーズボタン」を思い浮かべると、意味を捉えやすいですね。完全に終わりにするのではなく、後で再び続けることを前提とした「小休止」というニュアンスが特徴です。他の選択肢は、全く異なる意味を持つ名詞です。②の「原因」は 'cause'。③の「姿勢」は 'posture'。④の「通過」は 'passage' となります。

◆補足：動詞としては、"He paused for a moment to think." (彼は考えるために少しの間、言葉を止めた。) のように使います。名詞としては、"There was a long pause in the conversation." (会話に長い間が空いた。) のように使われます。'take a break' (休憩する) が比較的時間の長い休憩を指すのに対し、'pause' はより短い中断を表すことが多いです。

30.

解答 ③

【解説】

正解は③の「暴力的な」です。『violent』は、「暴力的な、乱暴な」という意味の形容詞で、人や行動、映画やゲームの内容などが、物理的な力を使って他者や物を傷つけようとする性質を持っていることを表します。名詞の 'violence' (暴力) の形容詞形です。他の選択肢は、'violent' とは正反対か、全く異なる性質を表します。①の「静かな」は 'quiet'、②の「平和な」は 'peaceful' で、これらは『violent』の対義語に近い概念です。④の「臆病な」は 'cowardly' や 'timid' となります。これらの単語は、人や社会の様子を描写する際に基本的な語彙となるので、しっかり覚えておきましょう。

◆補足：『violent』は、人や行動だけでなく、嵐や感情などが「激しい」様子を表すためにも使われます。例えば、"a violent storm" (激しい嵐) や "a violent argument" (激しい口論) のように使います。例文: "Parents are worried that their children might be affected by violent video games." (親たちは、子どもたちが暴力的なテレビゲームの影響を受けるのではないかと心配している。)

31.

解答 ④

【解説】

正解は④の「A を見送る」です。この熟語は、旅行や遠くへ出かける人などを、出発する場所（空港や駅など）まで一緒に行って、別れの挨拶をすることを意味します。「見送る」という日本語にぴったり対応する表現です。'off' には「離れていく」というニュアンスがあるので、「A が離れていくのを見る」という構成から意味を推測することもできますね。他の選択肢は、全く異なる意味です。①「A を解雇する」は 'fire A' や 'dismiss A'。②「A を見せびらかす」は 'show A off'。'off' の位置が違っただけで意味が大きく変わるので注意が必要です。③「A を最後まで見る」は 'see A through' などの表現が近いです。

◆補足：目的語である A は、'see' と 'off' の間に置かれることが多いです。(see me off, see him off など) 例文: "Many of her friends went to the airport to see her off." (彼女の多くの友人たちが、彼女を見送るために空港へ行った。)

32.

解答 ④

【解説】

正解は④の「(人が家などに) 侵入する」です。『break down』は、「正常に機能していたものが壊れて、機能しなくなる」という中心的なイメージを持つ、非常に重要な多義語の熟語です。①の「(車や機械が) 故障する」が最もよく使われる意味です。②の「(交渉や話し合いが) 決裂する」も、それま

で続いていた話し合いが壊れて終わるイメージです。③の「(化学物質などが) 分解する」も、元の構造が壊れて小さな要素になるイメージですね。これらはすべて『break down』の正しい意味です。④の「(家などに) 侵入する」は 'break in' や 'break into' という別の熟語が使われます。似ていますが、'down' と 'in' の違いで意味が全く変わるので注意が必要です。

◆補足：この熟語は、精神的な意味で「(人が精神的に) 参ってしまう、取り乱す」という意味で使われることもあります。例文: "My car broke down on the way to the airport." (空港へ向かう途中で、私の車が故障した。)

33.

解答 ①

【解説】

正解は①の「～の代わりに」です。『instead』は、ある選択肢を取らずに、別の選択肢を取ることを示す際に使われる副詞です。「A ではなく、その代わりに B」という、代替案を示す文脈で使われます。文末に置かれたり、文頭でコンマを伴って使われたりします。また、"instead of ～" の形で「～の代わりに」という前置詞句として使われることも非常に多いです。他の選択肢は、それぞれ異なる関係性を示します。②「～に加えて」は 'in addition to'、③「～にもかかわらず」は 'in spite of' や 'despite'、④「～の前に」は 'in front of' や 'before' が使われます。これらの前置詞や副詞句は、文の構造を複雑にする要素ですが、一つ一つ正確に覚えていくことが大切です。

◆補足：instead of ～ の使い方は特に重要です。例文: "I'll have tea instead of coffee today." (今日はコーヒーの代わりに紅茶をいただきます。) 副詞として単独で使う場合は、"We didn't go to the park. Instead, we went to the museum." (私たちは公園には行かなかった。その代わりに、博物館に行った。) のようになります。

34.

解答 ②

【解説】

正解は②の『drop by』です。この熟語は、「(～に) ひょいと立ち寄る、ちょっと寄る」という意味で使われます。特に前もって約束をせずに、どこかへ行くついでに短い時間だけ訪れる、というカジュアルなニュアンスがあります。この文では、帰り道にオフィスに「立ち寄る」ことを伝えているので、この表現がぴったりです。他の選択肢も見てみましょう。①の『pass through』は「～を通り抜ける」という意味で、中には入らず通過するイメージです。③の『go around』は「～の周りを回る、迂回する」。④の『stop at』は「～で止まる」ですが、「立ち寄る」という軽いニュアンスは『drop by』の方が強いです。

◆補足：『drop by (場所)』の形で使われることが多いです。次の問題に出てくる『drop in』も、ほとんど同じ意味で使うことができ、置き換えが可能です。どちらも便利な表現なので、ぜひ覚えて使ってみてください。例文: "Please feel free to drop by anytime." (いつでも気軽に立ち寄ってくださいね。)

35.

解答 ③

【解説】

正解は③の「とてもひどい」です。『awful』は、「とてもひどい、不快な、恐ろしい、最低の」といった、非常に強い否定的な意味を持つ形容詞です。天気、食べ物の味、映画の感想、体調、人の行動など、様々なものに対して使うことができます。この単語が使われている文は、話者が何かに対して強い不満や嫌悪感を抱いていることを示します。①の『wonderful』(すばらしい)は、意味が正反対の単語です。このような対義語は、セットで覚えることで記憶に定着しやすくなります。②の『unusual』は「普通ではない、珍しい」、④の『useful』は「役に立つ、有益な」という意味で、これらも重要な形容詞ですが、『awful』とは意味が異なります。

◆補足：『awful』と似た意味の単語に、'terrible' や 'horrible' があります。どれも「ひどい」という意味で使えますが、『awful』は日常会話で「最悪だ」というようなニュアンスで気軽に使われることも多いです。例文: "I had an awful headache this morning." (今朝はひどい頭痛がした。)"The weather was awful yesterday." (昨日の天気は最悪だった。)

36.

解答 ④

【解説】

正解は④の「これからはずっと」です。この表現は、「今この瞬間を起点として、未来に向かってずっと」という、時間の流れの新しいスタートを示す際に使われます。何かを決意した時や、新しいルールを導入する時などに、「今日から、今から」という気持ちを込めて使われることが多いです。他の選択肢は、それぞれ異なる時点や頻度を表します。①の「ついさっき」は 'just now' や 'a moment ago'。②の「時々」は 'sometimes'。③の「今のところは」は 'for now' や 'so far' となります。これらの時間に関する表現は、文の時制を決定する上でも非常に重要なので、正確に使い分けられるようにしましょう。

◆補足：決意表明として使う場合、"From now on, I will study English for an hour every day." (これからは毎日1時間、英語を勉強します。)のように、未来を表す 'will' と一緒に使われることがよくあります。新しい自分になるための、力強い合言葉のようなフレーズですね。

37.

解答 ①

【解説】

正解は①の「化学」です。『chemistry』は、物質の性質、構造、そしてそれらがどのように変化し、互いに作用するかを研究する科学の一分野です。高校で理系科目を勉強した方にはおなじみの単語ですね。選択肢はすべて科学の分野や学校の教科に関するものですが、それぞれ専門領域が異なります。②

の「物理学」は 'physics'、③の「生物学」は 'biology'、④の「地理学」は 'geography' と言います。これらの基本的な学問の名前は、英語の文章、特に説明文などでよく登場するため、セットで覚えておくと読解の助けになります。それぞれの単語が指す学問分野を正確に区別できるようにしておきましょう。

◆補足：『chemistry』には、もう一つ面白い意味があり、日常会話でよく使われます。それは、人々との間の「(感情的な) 相性」や「(特別な) 結びつき」を指す用法です。恋愛関係や、仕事のパートナー、バンドメンバーなどの間で、言葉では説明しにくい良い関係性がある場合に "They have great chemistry." (彼らはとても相性が良い) のように使います。

38.

解答 ④

【解説】

正解は④の「～を使い果たす」です。『run out of ～』は、「(蓄えていたもの) を使い果たす、～を切らす」という意味で使われる、非常に重要な熟語です。それまで持っていたものが、ついに底をついてゼロになってしまった、という状況を表します。例えば、冷蔵庫の牛乳がなくなったり、車のガソリンがなくなったり、お金を使い果たしてしまったりと、日常生活の様々な「切らしてしまった」場面で使うことができます。他の選択肢は全く違う意味の動作を表します。①は 'run away from'、②は 'run after'、③は 'run into' や 'come across' などの表現が近いです。似たような単語が使われていても、熟語になると意味が大きく変わるので注意が必要です。

◆補足：この表現の主語は、人だけでなく、物が主語になることもあります。例えば、"My phone ran out of battery." (私の携帯電話は充電が切れた。) のように使います。また、時間に関しても "We are running out of time." (私たちは時間がなくなっている。) のように言うことができ、非常に応用範囲の広い熟語です。

39.

解答 ②

【解説】

正解は②の「詩」です。『poem』は、感情や思想、情景などを、リズムや韻、美しい言葉遣いなどを用いて表現した文学作品、つまり「詩」を指します。日本の俳句や短歌も、英訳される際には 'poem' の一種として紹介されます。他の選択肢も、文学のジャンルを表す重要な単語です。①の「小説」は 'novel'。③の「劇、戯曲」は 'play' や 'drama'。④の「随筆、エッセイ」は 'essay' となります。これらの単語は、国語や英語の授業の文脈でもよく登場しますので、作品のジャンルを区別できるようにしておきましょう。物語全般を指す 'story' との違いも意識できると良いですね。

◆補足：詩を書く人は 'poet' (詩人)、詩全体や詩作という芸術分野を指す場合は 'poetry' という単語を使います。'poem' が数えられる名詞 (a poem, two poems) なのにに対し、'poetry' は数えられない名詞として扱われるのが一般的です。この違いも、少しレベルが高いですが知っておくと役立ちます。例文: "He wrote a beautiful poem for his wife." (彼は妻のために美しい詩を書いた。)

40.

解答 ③

【解説】

正解は③の『join』です。この単語は、既にあるグループ、チーム、クラブ、活動などに、新しいメンバーとして「加わる、参加する」という意味で使われます。すでに行われている活動の輪の中に入っていくイメージです。テニス部という既存のグループに参加する、というこの問題の状況に最も適しています。他の選択肢も「入る」に関連する動詞ですが、ニュアンスが異なります。①の『enter』は、建物や部屋、あるいは学校などに物理的に「入る」という意味や、「入学する」という意味で使われます。②の『attend』は、会議や授業、式典などに「出席する」という意味です。④の『visit』は、人や場所を「訪れる」という意味です。

◆補足：『join』は、"join the soccer team" (サッカーチームに入る)、"join the conversation" (会話に加わる) のように、スポーツチームから気軽な会話まで、幅広い対象に使うことができる便利な単語です。例文: "Would you like to join us for lunch?" (私たちと一緒に昼ごはんはいかがですか?)

41.

解答 ①

【解説】

正解は①の『scream』です。この単語は、特に「恐怖、興奮、激しい痛み」などが原因で、思わず出してしまう甲高い叫び声、つまり「悲鳴を上げる」というニュアンスで使われます。お化け屋敷で「キャー！」と叫ぶような状況に最もふさわしい単語です。他の選択肢も「声を出す」ことに関連する重要な動詞です。②の『yell』は、主に「怒り」や「警告」のために意図的に出す大声、つまり「どなる」に近い意味合いで使われます。③の『shout』も「大声で叫ぶ」ですが、こちらは「遠くの人に呼びかける」など、注意を引くために大声を出す、という状況でよく使われます。④の『whisper』は、これらとは正反対に、声を潜めて「ささやく」という意味です。これらの単語が持つ感情や意図の違いを理解することが、表現力を豊かにする鍵となります。

◆補足：『scream』は名詞として「悲鳴」という意味でも使うことができます。また、"scream with delight" (喜びのあまり叫ぶ) のように、恐怖だけでなく、極度の喜びを表す際にも使われることがあります。

42.

解答 ③

【解説】

正解は③の「～を整理整頓する」です。この熟語は、物事を正しい順序やあるべき状態に「整える、整理する」という意味で使われます。単に物を片付けるだけでなく、アルファベット順に並べたり、時

系列に沿って整理したりと、「順序 (order)」を意識した片付け方を指すことが多いです。例えば、本棚の本を分類して並べたり、乱雑になった書類を整理したりする場面で使われます。他の選択肢は、'order' という単語の別の意味から連想されるかもしれませんが、この熟語の意味とは異なります。①「～を修理する」は 'repair' や 'fix'。②「～を注文する」は動詞の 'order'。④「～を命令する」も動詞の 'order' が使われます。

◆補足：前の問題の 'tidy' が、主に散らかったものを元の場所に戻す「整頓」を指すのに対し、'put in order' は、より論理的な「整理」のニュアンスが強いと言えます。例文: "She spent the afternoon putting her files in order." (彼女は午後を使って、ファイルを整理整頓した。)

43.

解答 ①

【解説】

正解は①の『borrow』です。この単語は、「(無料で何かを一時的に) 借りる」という意味の動詞です。重要なポイントは、主語が「借りる側」の人間になるということです。「私が借りる」は "I borrow" となります。図書館から本を借りる、友人からペンを借りる、といった日常的な場面で頻繁に使われます。他の選択肢も確認しましょう。②の『return』は、借りたものを「～を返す」という逆の行為を表します。③の『search』は「～を探す」という意味です。④の『sell』は「～を売る」という意味で、これも文脈に合いません。それぞれの動詞が表す行為を正確に理解しましょう。

◆補足：『borrow』と間違えやすいのが、次の問題に出てくる『lend』です。『borrow A from B』で「B から A を借りる」という形を覚えておきましょう。例文: "Can I borrow your umbrella? I left mine at home." (あなたの傘を借りてもいいですか？ 私の傘は家に忘れてきてしまってます。)

44.

解答 ③

【解説】

正解は③の「私が～しても構いませんか」です。この表現は、自分がこれからしようとするのが、相手にとって迷惑にならないかどうかを丁寧に尋ね、許可を求める際に使われます。"mind" という動詞は「～を気にする、嫌がる」という意味なので、直訳すると「もし私が～したら、あなたは気にしますか？」となります。つまり、「気にしますか？」と尋ねることで、相手の許可を得ようとする、少し遠回しで丁寧な言い方なのです。他の選択肢は、それぞれ全く異なる意図の質問です。①は 'Could you help me do?'、②は 'Why may I do?'、④は 'Do you remember that I did?' のような表現になります。

◆補足：この質問に対する答え方には、特に注意が必要です。「はい、構いませんよ (=どうぞ)」と許可を与える場合は、"No, I don't." (いいえ、気にしません) や "Not at all." (全く) のように、否定形で答えるのが一般的です。もし "Yes, I do." と答えると、「はい、気にします (=やめてください)」という強い拒絶の意味になってしまうので、気をつけましょう。

45.

解答 ④

【解説】

正解は④の「大通り」です。『avenue』は、特に都市部にある、両側に木が植えられていたり、立派な建物が並んでいたりする、広くてまっすぐな「大通り、並木道」を指す言葉です。単なる 'street' や 'road' よりも、より広くて美しい、計画的に作られた道というニュアンスがあります。アメリカのニューヨークにある「五番街」は "Fifth Avenue" として有名ですね。他の選択肢は、それぞれ異なる種類の道を表します。①の「路地」は 'alley' や 'lane'。②の「坂道」は 'slope' や 'hill'。③の「高速道路」は 'highway' や 'expressway' となります。道に関する単語はたくさんあるので、それぞれの特徴をイメージしながら覚えるのがおすすめです。

◆補足：『avenue』は、比喩的に、目標を達成するための「道、手段、方法」という意味で使われることもあります。例えば、"We should explore every avenue to solve the problem."（我々はその問題を解決するために、あらゆる手段を探るべきだ。）のように使います。まずは「大通り」という基本的な意味をしっかり押さえましょう。

46.

解答 ④

【解説】

正解は④の「飛行、便」です。『flight』は、動詞の 'fly'（飛ぶ）の名詞形で、最も基本的な意味は「飛行」です。鳥や飛行機が空中を飛ぶこと全般を指します。そして、その意味が発展して、空港で使われる「（飛行機の）便」という意味でも非常によく使われます。例えば、"Flight JL123 to London"（ロンドン行き JL123 便）のように、便名を表す際に必ず使われる単語です。他の選択肢を見てみましょう。①の「光」は 'light'。②の「戦い」は 'fight'。③の「洪水」は 'flood' です。②の 'fight' は 'flight' とスペルがとても似ているので、混同しないように特に注意が必要です。

◆補足：空港の電光掲示板には、"Arrivals"（到着便）と "Departures"（出発便）の表示があります。その下に便名（Flight Number）が並んでいます。海外旅行に行く際には必ず目にする単語なので、しっかり覚えておきましょう。例文: "Our flight was delayed for two hours due to bad weather."（悪天候のため、私たちの便は2時間遅れた。）

47.

解答 ④

【解説】

正解は④の「床、階」です。『floor』には、主に二つの重要な意味があります。一つは、私たちが立ったり歩いたりする部屋の「床」です。もう一つは、ビルなどの建物の「階」です。例えば、"the first floor" は「1 階」（イギリス英語では「2 階」）、"the second floor" は「2 階」を指します。このよう

に、同じ単語が全く異なるものを指すことがあるので、文脈からどちらの意味で使われているかを判断することが大切です。①「天井」は 'ceiling'、②「壁」は 'wall'、③「庭」は 'garden' です。家や建物に関するこれらの基本的な単語は、日常生活を描写する上で欠かせません。

◆補足：「階」として使う場合は、"My office is on the fifth floor." (私のオフィスは5階にあります。) のように、前置詞に 'on' を使うのが一般的です。「床」としては "Please don't put your bag on the floor." (床にカバンを置かないでください。) のように使います。

48.

解答 ②

【解説】

正解は②の「不便、迷惑」です。『inconvenience』は、形容詞の 'convenient' (便利な) に、否定を表す接頭辞 'in-' と、名詞化する接尾辞 '-ence' が付いた単語です。その成り立ちからも分かるように、「便利ではないこと」、つまり「不便」や、それによって生じる「迷惑」を意味します。公共交通機関の遅延や、店の臨時休業など、社会生活の中で生じる様々な不都合な状況を表す際に使われる、少し丁寧でフォーマルな響きを持つ単語です。①の「快適さ」は 'comfort' や 'convenience' で、逆の意味です。③の「招待」は 'invitation'、④の「発明」は 'invention' です。

◆補足：動詞として「～に不便をかける、迷惑をかける」という意味でも使われます。例文: "We apologize for any inconvenience this may cause." (これにより生じるいかなるご不便もお詫び申し上げます。) これは、お店や公共機関などからのアナウンスで非常によく使われる決まり文句です。

49.

解答 ①

【解説】

正解は①の「～した方がよい」です。この表現は、相手に対して何かをすることを強く勧める際に使われます。'should' と同じように「～すべきだ」と訳されることもありますが、『had better do』には、「もしそうしなければ、何か悪い結果や不都合なことが起こるだろう」という、少し切迫した警告のニュアンスが含まれているのが大きな特徴です。そのため、友人への軽い提案というよりは、医者が患者に助言する場面や、親が子に注意する場面など、少し真剣な状況で使われることが多いです。②「～する方が好きだ」は 'prefer to do'、③「～したにちがいない」は 'must have done'、④「～すべきだったのに (しなかった)」は 'should have done' となり、それぞれ全く異なる意味を表す重要な構文です。

◆補足：否定形は "had better not do" (～しない方がよい) となります。'not' の位置に注意してください。例文: "You had better take an umbrella with you. It looks like it's going to rain." (傘を持っていた方がいいよ。雨が降りそうだから。)

50.

【解説】

正解は④の「(A に) 支払いをさせる」です。『pick A up』または『pick up A』は、非常に多くの意味を持つ重要な熟語ですが、中心的なイメージは「何かを拾い上げる、取り上げる」ということです。①「(人) を車で迎えに行く」は、人を車に乗せて拾い上げるイメージ。②「(落ちている物) を拾い上げる」は最も基本的な意味です。③「(言語や技術、知識などを) いつの間にか習得する」も、情報を拾い集めるイメージです。これらはすべて『pick A up』の正しい意味です。④の「(A に) 支払いをさせる」という意味はこの熟語にはありません。これは 'make A pay' などの表現を使います。多義語の熟語は、一つの意味だけでなく、文脈に応じて様々な意味を理解できることが重要です。

◆補足：他にも「(電話の) 受話器を取る」や、「(店の品物を) 買う」など、たくさんの意味があります。基本イメージの「拾い上げる」から、どのように意味が発展しているかを考えると、覚えやすくなるかもしれません。例文: "Could you pick me up at the station at six?" (6時に駅まで車で迎えに来てくれませんか?)
